

日本共産党 前杉並区議会議員

X(旧 Twitter) ID: @akikocurry



の がき
野垣あきことまちづくりカフェ

2025 年5月号

連絡先 090-9293-8710 ご相談どうぞ！

子ども・暮らし・平和



深刻な物価高騰と猛暑への対策を 杉並区に申し入れ



4月30日、日本共産党杉並区議団は岸本区長に対し、「深刻な物価高騰から区民の命と暮らしを守る緊急対策を求める申し入れ」「深刻な猛暑から区民の命と暮らしを守る緊急申し入れ」を行いました。

① 物価高騰対策の申し入れ

長引く物価高騰が区民の暮らしを直撃しており、健康や命に関わるほどの深刻な状況となっています。米の価格は備蓄米の放出後も下がらず、5kgの平均価格はついに1年前の倍以上の4,220円となり、17週連続で高値を更新しています。

党区議団は杉並区に対し、区民の命と暮らしを守り、ただちに中小企業、個人事業主の営業を守るための緊急対策を進めることを求めました。

杉並区へは、低所得者や高齢者、子育て

世帯などへのお米券の配布、事業者への光熱費補助など13項目を要望しています。

杉並区から都へ要望して欲しいこととしては、水道料金や国民健康保険料の引き下げなどの4項目をあげました。

杉並区から国へ要望してほしいこととしては、消費税の減税やトランプ関税対策などの7項目をあげています。

② 猛暑への対策の申し入れ

同時に、「深刻な猛暑から区民の命と暮らしを守る緊急申し入れ」を岸本区長に手渡しました。

年々深刻化する猛暑から区民の命と暮らしを守るために、杉並区に対して緊急対策を実施することを求めました。

申し入れの内容は、生活保護世帯、高齢者・障害者・低所得世帯、ひとり親世帯等を対象としたエアコンの購入・設置・修理費用への補助制度の創設や、保育園や児童館、区立小中学校、区立施設等のエアコンの整備、区が区立施設で実施している「涼み処」の周知などの9項目です。

2つの申し入れの全文は、党区議団のホームページに掲載しています。記事内のタイトルの右下にあるQRコードからもご覧になれます。



生理の貧困の解決へ

女性トイレで生理用品を無料配布する施設が増えました

誰もが生理用品を入手できるようにすることは、生理の貧困をなくし、女性の健康と衛生、尊厳や人権を守る上で重要な課題です。

井草地域区民センターなど3カ所で新たに無料配布がスタート！

杉並区では、ジェンダーギャップの解消や女性の健康支援のため、区役所本庁舎、西荻、高井戸、高円寺の各地域区民センター、ウェルファーム杉並などで試行的に生理用ナプキン無料配布を行ってきました。

4月4日からは、新たに井草、阿佐谷、永福和泉の各地域区民センターでも無料配布を開始しています。また、区は今後の取組の参考のため、生理用品の無料配布についてのアンケートを実施しています。右下のQRコードから回答できます。

岸本区長は、「杉並区では2022年から全区立小中学校で生理用品の無料配布をトイレで行っています。トイレットペーパーと同じように必要な人が入手できるようにという気持ちです」「すべての人が尊厳をもって生理期間を過ごせるように杉並区としても取り組んで参ります」と動画で発信しています。

共産党の女性議員がSNSで発信

3月に、日本共産党の吉田あやか三重県議がSNSで、「いきなり生理になって困った。トイレットペーパーみたいに、生理用ナプキンをどこにでも置いてほしい」と投稿し、大きな話題となりました。多くの

共感が寄せられる一方、「コンビニで買え」「持ち歩いていないのか」など酷いコメントも多くありました。

自民党の元国会議員の遅れた認識

自民党から参院選に出馬予定の杉田水脈氏は、「常時ポーチの中にナプキンを1つ入れておきなさいってお母さんから教えてもらいませんでしたか？女子の嗜みですよ～」とコメント。生理の貧困は国も取り組んでいる政治的・社会的課題であり、認識が不足しています。

その後、吉田議員に殺害予告メールが8千件も届きました。殺害予告をするようなやり方は、生理への偏見と女性差別に基づく暴力であり、絶対に許されるものではありません。

「生理の貧困」について考えよう

私も議会で生理の貧困や生理用品の無料配布を取り上げ、学校や公共施設のトイレに生理用品の設置が進んできました。

たとえば、災害時に避難所で運営側の知識不足のために十分な備蓄がなかったり、必要なのに言い出せなかったり、入手できずに感染症にかかることもあります。あらゆる人の人権や尊厳を尊重するための人権教育・包括的性教育が改めて重要になっています。今後も党区議団と連携し、生理や「生理の貧困」に対する知識や意識の共有とさらなる拡充を求めています。

生理用品無料配布アンケート

杉並区では今後の取組の参考のためにアンケート実施中。ご協力ください▶



多摩全生園の春の桜並木と国立ハンセン病資料館見学



ごみ焼き場の残滓を運び、その上に土をかぶせて植栽した「けやきの丘」にて

4月15日、野垣あきこ地域後援会で、東村山市にあるハンセン病療養所・多摩全生園と国立ハンセン病資料館の見学に行ってきました。

国の誤った隔離政策と差別

患者運動と国賠訴訟で名誉を回復

国は1907年からハンセン病対策を始めますが、治療よりも隔離がメインでした。多摩全生園は療養所として1909年に東村山市に開設されました。

全生園の敷地内にあるハンセン病資料館は1993年に開館しますが、1996年に「らい予防法」が廃止され、2001年のらい予防法違憲国家賠償請求訴訟の判決などを受けて、2007年に国立の施設として再開館しました。

療養所でも数々の人権侵害が・・・

療養所では苛刻な生活や労働、懲戒検束、断種、堕胎などが行われていました。戦後も、ハンセン病の特効薬が発見されていたにもかかわらず、半世紀も隔離政策が続きました。入所者は外出も許されなかったために、療養所内には学校、寺社や教会、火葬

場や納骨堂まであったことに驚きました。

入居者たちの自治と運動

療養所では療養生活上の課題を解決するため、入所者たちによる自治会があります。戦後の民主化のなか、自治会は当事者自らが闘い、社会復帰していく土台となり、ついにはらい予防法の廃止、国家賠償請求訴訟の勝利に繋がります。

しかし、国賠訴訟が終わった今もハンセン病問題は終わっていません。原告はほとんど実名を公表しておらず、家族から患者が出たことを隠して生活している人がほとんどです。

国立ハンセン病資料館ではユーチューブ動画も発信していますので、右のQRコードからご覧ください。



資料館の展示から、ハンセン病の歴史などを目の当たりにし、差別と偏見をなくさなければとの思いを新たにしました。

この日はとても天気が良く、八重桜やチューリップも見ることができました。みなさんもぜひ一度、多摩全生園に足を運んでみて下さいね。



▲教会

◀納骨堂

党区議団が国民健康保険料の引き下げを求め実現へ

第一回杉並区議会定例会では、新年度予算が共産党を含む賛成多数で可決。国保会計では党区議団が求めてきた国民健康保険料の引き下げが盛り込まれています。

国保料は3,781円引き下げへ！

新年度の国保料は、一人あたり前年度比で3,781円の引き下げとなりました。党区議団は、第一回定例会の予算特別委員会で、高すぎる国保料の引き下げを求め、質疑を行いました。委員会で国保料の引き下げを求めたのは党区議団だけでした。

区も構造的問題を認める

質疑では、これまでの区民の国保料負担増の実態を示し、区民アンケートに寄せられた声を紹介。高すぎる国保料についての区の認識を問い、引き下げに向けた努力を求めました。

区からは、国民健康保険制度が構造的な問題を抱えており、深刻な負担増と物価高騰により区民生活を圧迫しているとの認識が示され、新年度は保険料を引き下げることが表明されました。

また、国や都の財政負担が必要とされるため、特別区長会等を通じて、保険料負担

杉並区の国保料の実態

◆毎年引きあがってきた保険料の実態
(年収400万、40歳夫婦と子2人の4人世帯)

年度	保険料	年収比
2024	61万4,377円	15.4%
2019	51万816円	12.8%
2014	43万7,099円	10.9%
2010	24万7,027円	6.2%

の引き下げを求める等の対応を行うと示されました。

新年度の国保料が引き下がり、連続値上げがストップしたことは重要ですが、引き続き重い負担であることに変わりはありません。国や東京都の財政責任を果たさせると共に、基礎自治体としての負担軽減の努力を求めました。

東京都にも責任を果たさせるために

党都議団は、3月に18歳までの子どもの国保料ゼロ条例を提案しています。

6月の都議会議員選挙では原田あきら都議を押し上げ、さらなる国保料の負担軽減を実現させましょう。

今年も庭のプランターのミョウガがぐんぐんと伸びてきました。秋ミョウガなので収穫はまだだいぶん先ですが、毎朝水をやるたびに、その成長にビックリしています。

もう一つのプランターには、いただいた白いいちごの苗を植えています。いちごはハウス栽培が多く、買うと高いので農家でも育てるのは大変だと思います。はたして屋外のプランターで育つものなのか・・・とあまり期待はしていません(笑)、これからの季節はSNSにもアップしたりして、栽培を楽しんでいきたいと思っています。

【あきこの部屋】

